

アグリ ワーク ポイント AGRI WORK POINT



秋整枝のタイミングに注意

茶指導販売課 菊川



気温が低下し始め、秋らしい気候となりました。この時期は翌年一番茶の充実に繋がる作業が中心になりますので、生育・気象状況に合わせて管理を行いましう。

秋肥の施用

秋整枝は、摘採面をならして芽揃いを均一にしつつ、摘採時に古葉が混入するのを防ぐために行います。

時期… 10月下旬頃（一日の平均気温が18℃以下になった頃）

高さ… 三番茶摘採園では摘採面を軽くならす程度

三番茶未摘採園では二番茶の摘採面から4～6cm上（三番茶の葉が2～3枚残る程度）

※葉層は8cm以上確保するようにしましょう。

※昨年はこの時期の気温が例年よりも高く推移したことで、早いタイミングで秋整枝を行った茶園での**再萌芽**が管内でも目立ちました。暖かい気温によって再萌芽すると、冬場の**低温による被害**を受けやすくなりますので、注意が必要です。

病害虫の防除

年間を通した病害虫の防除も、秋整枝後に終盤を迎えます。各地区の防除規制などに従って適正防除を心掛けましょう。

10月下旬頃

①カンザワハダニ・チャトゲコナジラミ

高温・特に乾燥下では発生数が多くなります。昨年は夏場に多発した茶園が多くなりましたが、その後、台風の影響などによって個体数はやや少なくなりました。

しかし、この時期に発生数が抑えられていても春先にかけて増加する傾向にありますので、茶園の状況に合わせて防除を行いましう。

②炭疽病

傷口から感染し、落葉などの被害を引き起こすため秋整枝後のなるべく早いタイミングで防除を行うことが大切です。